

## 平成28年度第1回厚生委員会行政視察報告書

### 京都府南丹市公立南丹病院の「医療体制の確保の取り組み」について

日 程	平成28年8月9日（火）午前10時～午前11時30分
場 所	京都府南丹市 公立南丹病院
相手方	公立南丹病院 事務局長 國府 諭史朗
参加議員 氏 名	委員長 大塚 正俊 副委員長 高野 良信 委員 奥山 裕子、小住 利子、古江 信一、山影 智一
目 的	南丹市は、子ども医療費の無償化を高校生まで拡大しており、患者数の増に対応できる公立南丹病院の医療体制（医師・看護師）の確保について研修し、中津市における子ども医療費の無償化の範囲拡大に向けた医師・看護師の確保の方策を探ることを目的とする。
内 容	<p>《市の概要》</p> <p>南丹市は、京都府中部の丹波地方に位置し、人口 32,748 人、行政面積 616.40km<sup>2</sup>、平成 28 年度一般会計当初予算 220 億円となっている。</p> <p>《公立南丹病院の概要》</p> <p>開設日 昭和 11 年 4 月 1 日 職員数；667 名（常勤 500 人）、医師 83 名、看護師 329 名 病床数；464 床（一般 450 床、結核 10 床、感染 4 床、人工透析 70 床） 標榜診療科目；内科、呼吸器内科、精神科、循環器内科、消化器内科、肝臓内科、血液内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、脳神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、リウマチ科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、歯科・歯科口腔外科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 亀岡市（9 万人）、南丹市（3 万人）、京丹後町（1.2 万人）の国民健康保険組合が設立</li> <li>・ 病院は黒字経営を維持している。</li> <li>・ 医師は、京都府立医科大学より派遣。必要な医師は確保できている。</li> <li>・ 看護師が不足し、52 床を休床している。看護学校を併設し、40 名定員のうち 30 名が市民病院に入職。看護師等修学資金制度（看護師月 6 万円、助産師月 8 万円）があり、貸与を受けた期間市民病院に勤務すれば免除規定有り。）</li> </ul> <p>《小児科医の現状》</p> <p>小児科医 常勤 6 名、365 日 24 時間の小児救急医療体制を確立。 当直 4～5 回／月＋サポート 2 回／月、7～8 回／月の人もいる。 病院 OB が開業している小児科医が応援に来てくれる。 救急の 20%が小児救急</p>

	<p>小児科病棟 22 床 小児救急 平日（18：00～8：00）10 名前後 休日 30～40 名程度／日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンビニ受診を如何に減らすか課題。</li> <li>・日本小児科学会の HP や電話 # 800 で、相談が出来る。 HP では、病院に行く必要あり、なしの判断をしてくれる。</li> </ul>
成 果	<p>南丹市の高校生までの子ども医療費の無償化は、11 年前の旧町時代から始まっており、制度が始まった時点における患者数の増加による病院への影響はわからないとのことであったが、特に問題は生じていないとのことであった。</p> <p>医師の確保は京都府立医科大学からの派遣が中心であり、臨時的な医局からの応援体制も確保されており、国立、私立医科大よりも公立医科大学の方が協力的であることが分かった。</p> <p>看護師確保に向けて看護師等修学資金制度を設けており、市内の民間病院の看護師確保にも寄与しているとのこと、是非中津市においても同様の制度を設ける必要がある。</p> <p>また、コンビニ受診対策として、本小児科学会の HP や電話 # 800 の活用を市民に周知する必要があると考える。</p>